

仲間と  
出会い  
話したい

## 全国から富山に集まりました。

本人ネットワーク支援委員会では、認知症の本人たちが出会い、話し合い、一緒に体験を共有できるよう支援することを目的に活動を行っています。  
2009年5月15日～17日、富山県で全国本人交流会を行いました。  
認知症の人が13人（富山県以外から7人）参加しました。

### 交流会 1日目

男性のサポーターが少なかったので、入浴がちょっと心配でしたが、忘れ物もなかったようで...なんとか無事に終了。家族も他の人のサポーターになって助け合っただけの入浴でした。

筍をはじめ富山の美味しいものを夕食にいただきながら、自己紹介しました。診断時のつらかったことを思い出したり、仲間と出会え、ホッとした気持ちになり思わず涙がこぼれました。



青津さんがボランティアで続けている朗読を披露  
「まんじゅうこわい」を読む優子さんの声と表情の豊かさに、聞く者は、話にひきこまれていきました。

### 全国本人交流会スケジュール

#### 5月15日

午後から夕方にかけてみなさん  
ポチポチ集まってきました。

#### 入浴

誰のサポートをするか、どの車にのるか決定。温泉に行く人、お泊り場所で入浴する人に別れる。

#### 夕食

自己紹介、これまでの写真上映会  
朗読

#### 5月16日

宿泊しない富山の本人・家族も合流  
午前・本人・家族交流会  
本人、家族と別れて交流会  
午後・スポーツ、陶芸、ダンスなど  
みんな思い思いに参加

#### 5月17日

#### 午前・グループ交流会

本人・家族・サポーターの混合グループが3つに分かれて話し合いました。

#### 感想

#### 昼食懇親会

#### 解散

## 交流会 2 日目

### 本人交流会より

話の流れの中、脳を喜ばせることがよいのではないかと  
いうことになり、皆さんでアイデアを出し合いました。

#### 『脳を喜ばせるには』

- ・ 風呂に夫婦一緒に入る。
- ・ 風呂で背中をながしてもらう。
- ・ 散歩する。近所の人がかけてくれたり、
- ・ おかしをくれたりする。
- ・ 好きなことをする。
- ・ リラックスする。
- ・ 昼寝をする。



#### 本人交流会参加者の手

真ん中にあるのは、もみじ饅頭👉  
「まんじゅうほしい」ということでは  
ありません (^ ^ ;



陶芸に挑戦した人の作品



### 家族交流会より

時間がきても話したいことはつきず...本人たちが昼ごはんを食べ終わっても話が続けていました。心配して本人が呼びに行きました。

治験や服薬についての情報交換。関東や広島の情報も交換できました。

介護の工夫、本人に何かしてもらうために犬を飼ったり、家族会の仕事の手伝いをしたりしている。

進行した人からのアドバイスや、これからの心配ごとなど・・・



## 交流会 3 日目

### グループ交流会より

#### 「まわりのひとにわかってほしいこと」

- ・まわりの人や家族にもがんばっていることをわかってほしい
- ・職場の中に理解と協力が得られて、少しでも仕事が続けていけたら嬉しい
- ・自分を含めて家族の健康が一番だ
- ・まわりはやさしいので困っていない。
- ・ハンディを隠さず普通に生活していきたい。
- ・損得で損をする相手には病気を知らしていない。
- ・地域に理解してほしい(トイレ、買い物を利用するとき)
- ・恥ずかしく思わないで病気を話して理解してもらおう。
- ・初期の段階では、まわりには知られたくない。
- ・趣味にあわせたケアをしてほしい。

= 3 日間の参加者 =

本人 13 人

富山 6 人、千葉 2 人、広島 2 人

東京・福井・大阪各 1 人

宿泊 9 人

初参加者 5 人

男性 10 人、女性 3 人

家族 14 人

サポーター 12 人 でした。



### 本人の感想より

#### 「交流会に参加して思ったこと」

- ・人見知り(人との関わりが下手)があるので、とても不安でしたが主人とも一緒におり、また皆さんがとても良い人たちだったので参加して楽しかった。
- ・少しずつ輪が大きくなっているかな、富山県内の人の参加がすくないな
- ・楽しかった。皆様に会えてよかった。
- ・皆様の気持ちが優しく楽しくすごすことができました。
- ・参加者の人とお会いできたことです。

#### 「良かったこと、嬉しかったこと」

- ・たくさんの人たちと一緒においしい食事を頂き、また、バトミントンや卓球、ダンスなど楽しかったです。
- ・ダンス講習は良かった、継続を!
- ・料理がとてもおいしかった。
- ・正直によかった。
- ・今回、出席できたこと。

#### 「困ったこと」

- ・場所や、いろんなトイレであろうと他のところであろうと違ったところは全部扱いがわからずモタモタした。
- ・特になし、残念ながら雨で・・・
- ・耳の調子が良くなって、思うとおりに聞くことが難しく残念でした。

認知症の人と家族の会・富山県支部のご助力で、全国交流会が実施できました。身近で集まれることもさることながら、全国の人と交流することは、情報の交換や離れた仲間とも出会う大切な機会でした。

次回は、10月9日～11日です。参加者募集中!!

自分たちの意向  
を施策に反映  
してほしい

厚生労働省が本人の声を聴く

## 若年認知症対策意見交換会に参加

2009年5月12日厚生労働省の招きで、若年認知症の11人とその家族、サポーターが霞ヶ関を訪れました。

インフルエンザ騒ぎの中、舛添大臣に会えるか心配していましたが、直接会って話をすることもできました。

認知症の本人から「これらからも本人の声を聴く機会をもうけてください、」という発言があり、どのような形になるかわからないが、本人の子を聞く機会を持つと約束してもらいました。



本人の声を聴く舛添厚生労働大臣

本人ネットワーク支援委員会に、ご本人の声を  
お寄せください。

本人ネットワーク支援委員会：

ホームページ：<http://www.dai-jobu.net/>

メールアドレス：[info@dai-jobu.net](mailto:info@dai-jobu.net)

事務局：社団法人認知症の人と家族の会

〒602-8143 京都府京都市上京区堀川丸太町

下ル京都社会福祉会館内

TEL：075-811-8195

FAX：075-811-8188

### 参加者の感想

#### 足立昭一さんの感想

・自分の人生の一括りをしようという年齢になって、世紀の難病とも言えるこの病になり、自分の居場所がなくなるのではと思っていた。そんな時に、自分に対しても社会に対しても明るい話し合いの場ができたのではと思います。前進ある一歩にしたいです。

・大臣にまで、私たちに直接会っていただき、その心を理解して下さって、私たちに一筋の明るい希望をもたらしてくれました。生きる力が湧いてきました。

#### 足立由美子さんの感想

・全国より11人もの認知症のご本人が集まり、本人の思いを語ったということに大きな意味がある。そのことが今後の施策に生きるように望みます。

・この病は、絶望の病ではなく希望に向かって進んでいく病だと思いたい。そのためには、本人の方々が声を上げていく。さあ、歩き出そう、みんなで！という第一歩になればと思います。

ホームページから本通信や報告書、パンフレットがダウンロードできます